

猛暑に思う

松浦 俊博

ここ数年間は、夏になると前の年より暑くなったと感じる。家にいても、救急車のピーポーが頻繁に鳴り響き、「また熱中症で倒れた人がいるのだろうか」と溜息が出る。

地球温暖化の悪影響が目に見えて余るようになってから随分経つ。人間が排出した温室効果ガスが過去百年の気温急上昇の原因であることには疑いの余地がないそうだが。地表の氷が解け、大気温度と海面温度の上昇が生じ、これに伴い、上空を西から東に吹くジェット気流に緯度方向の移動と著しい蛇行を生じて、高緯度地域でも異常な気温上昇が生じる。また、海面温度の上昇は台風やハリケーンの強大化をもたらす。日本の農作物の不作や漁獲量の減少にも影響を及ぼしている。

CO₂の排出量を減らすことを目標とした活動で温暖化は解決するのだろうか。世界の人口を減らさないと解決しないのではないか。医療の発展により、特に発展途上国での乳児の生存率が高まり、自然の摂理に反して世界の人口はすでに許容限界を超えた。人口増加に伴い、世界のエネルギー消費量が増大し、さらに森林伐採・海洋汚染・戦争などによる環境破壊が進んでいる。これらの悪影響が、すべての異常現象と連鎖しており、その自滅行為を制御する知恵が未だ人間にはないようにみえて恐ろしい。

先進国では、高齢者が多く若者が少ない逆ピラミッド型人口分布になってしまった。今後は人口の減少が予想される。人手不足の問題も顕著になっており、効率の良い社会に変わる必要がある。我々高齢者の本来の役割は、若い世代が十分に活動できるよう支え、社会の効率を上げることだと思う。若者に世話をかけず、社会の変化に遅れをとらず、自分の介護装置も自作する意気込みで過ごしたものだ。財産などは早めに子孫に渡すか社会に寄付して、次世代に有効に使ってもらうのがよい。

野生の動物たちは弱肉強食の環境で生き、老年個体の体力や死亡率も若年個体とあまり変わらない。死ぬ直前まで働き、ピンコロで死ぬ。老年を支える集団コストもなく効率の良い社会を形成している。見習える部分もあるように思う。